

■勝海舟(麟太郎・安芳)

幕臣。江戸城無血開城への道を開き、維新後も長命を保って、生き字引的存在となった。

かつかいしゅう

シボ 来日・1823=

生。下級幕臣勝小吉の長男で通称麟太郎。

鼠小僧磔・・1832=9歳:

幼少のころ將軍徳川家斉の孫初之丞の相手をつとめたが、

その死によって微禄御家人の生活に戻る。

大塩平八郎乱1837=14歳:

適塾ワゴン・1838=15歳: 家督を相続。島田虎之助について剣術をきわめる。

天保改革始・1841=18歳:

阿部正弘首座1845=22歳: 島田のすすめで蘭学により西洋兵学を身につけた(蘭学の師は永井青崖)。この年、結婚。

孝明天皇・・1846=23歳: 本所に育ったが、蘭学修学の便のため赤坂に移る。

国定忠治磔・1850=27歳: 赤坂田町に兵学塾を開いた。

ペリー来航・1853=30歳: ペリー来航後しばしば上書してその識見を幕府有司に知られ、

安政大地震・1855=32歳: 初頭の海防掛視察団に加わって伊勢および大坂湾一帯の防備体制を調査、ついで同年から長崎ではじまる海軍伝習に幹部学生として派遣され、

安政の大獄・1859=36歳: *帰府すると、軍艦操練所教授方頭取、

桜田門外変・1860=37歳: 咸臨丸を指揮して太平洋を横断、サンフランシスコでアメリカ社会を見て、帰国。

生麦事件・・1862=39歳: 軍艦奉行並に昇進、軍制改正の議につらなり、また老中らを軍艦で大坂へ運ぶ。

8月18日政変 1863=40歳: 將軍家茂の大坂湾視察を案内して神戸海軍操練所設立の許可をもらい、諸藩士や坂本竜馬ら脱藩浪士の教育にあたる。

禁門の変・・1864=41歳: 正規の軍艦奉行に進み安房守を称したが、浪人庇護をとがめられて免職。

薩摩藩士密航1865=42歳: 神戸操練所も廃止となる。日本・朝鮮・清国三国同盟の構想をもつも、実現の機をつかめず、

薩長同盟・・1866=43歳: 幕府の第2次征長戦が難航したため軍艦奉行に復職、安芸の宮島に出張して長州藩との停戦交渉に成功するが、政策決定の主体を雄藩代表らの合議体に移そうとする構想が最後の將軍となる徳川慶喜と対立。

明治維新・・1868=45歳: *江戸に戻って軍艦奉行の日常業務にたずさわるうちに、京都の政局は鳥羽・伏見の戦まで進む。幕府でなくなった徳川の新体制のもとで海舟は海軍奉行並から陸軍総裁、さらに軍事取扱となって東征軍にたちむかい、江戸総攻撃予定日の前夜、西郷隆盛と会見し、薩摩藩や長州藩が存続するかぎり徳川も藩として生き残る権利があるとの主張を認めさせ、無血開城への道を開く(江戸開城)。徳川家に従って駿府に移住。

戊辰戦争終・1869=46歳: 安芳と改名。東京~静岡間を往復しながら新旧両政権間の事務引継ぎ、新政権への意見具申につとめ、

学問のすすめ1872=49歳: 海軍大輔就任とともに、東京永住の態勢を固める。

明治6年政変 1873=50歳: 政府大分裂には関係せず、事件後空席を埋めて参議兼海軍卿に進むが、西郷には深い同情をもち、西郷の真意は征韓論ではないと晩年まで主張し続けた。

初の民間工場1875=52歳: *元老院議員に転じるが、それも辞任。以後10余年は野にあって、旧幕臣の生活救済につとめ、また逆賊となった西郷の名誉回復に心を配る。

西南戦争・・1877=54歳:

明治14年政変1881=58歳:

内閣発足・・1885=62歳: この頃、自作の琵琶歌“南洲追憶”(それ達人は大観す……)流行。

帝国大学始・1886=63歳:

国民之友始・1887=64歳: 伯爵。「吹塵録」、

初の対等条約1888=65歳: 枢密顧問官となって、再び活発な意見陳述を開始。「海軍歴史」編纂、

帝国憲法発布1889=66歳: 「陸軍歴史」編纂、

帝国議会始・1890=67歳: 「外交余勢」著述、

足尾鉾毒始・1891=68歳: 「開国起原」著述、

日清戦争始・1894=71歳: 「幕府始末」著述など、旧幕時代の記録を編集・刊行した功績も大きい。

日清戦争終・1895=72歳:

清国との敵対や朝鮮への出兵には終始反対、日清戦争にも批判的で、足尾鉾毒問題では廃山のほかはないと言い切るなどして、

Bushidou・・1899=76歳: 没した。